

## 高校生のキャリア教育と就職支援を考える

- 学校・企業・ハローワークの連携の中で -

東京聖栄大学  
長 須 正 明

### 1. 高卒就職の現状から

- \* 高卒就職者の約半数が製造業，生産工程・労務の職業に就いている（卸売・小売，サービス業／専門・管理，技術，事務の職業がそれに次いでいる）  
高卒就職の多くを占める製造業，生産工程・労務の仕事は多くの高校生にとって「好き」「やりたい」と言える仕事なのだろうか？（そもそも高卒者は自由に仕事を選べるのだろうか？）
- ~ 就ける仕事，やれる仕事と「就きたい」仕事，「やりたい」仕事の乖離
- \* 「岩手県における青少年の進路と就労に関する実態調査」から（岩手県，2007）  
高卒時に「進路」（多くは就職）が決まらなるとその後「正規雇用」労働に参入できない確率が高い・・・高卒無業者の問題，若年無業者の問題につながる
- \* 若年無業者の問題は「社会的排除」の問題でもある  
若者に対する包括的支援が必要である ~ Youth Work の可能性

### 2. 企業・社会に対して

- \* 高卒労働力の見直しが必要～大卒労働力との違いは何か？大卒でないとできない仕事はそんなに多いのだろうか？  
（理想論かもしれないが）「同一労働同一賃金」は可能か？

### 3. 進路指導・キャリア教育に関して

- \* 進路指導から「キャリア教育」に概念・支援の範囲ともに拡大してきているが，いまだに「仕事」や「働くこと」に偏りすぎてはいないだろうか？
- \* 生活全体＝どこで，誰と，何を大切にして，どんな生活をしたいのか＝から将来設計をしないと現実的なキャリア・デザイン，進路選択はできないのではないだろうか？  
ハローワークは「地域生活」（自所求人を通して），「労働生活」（連絡求人を含めた求人全体を通して）から「個人の生活の見通し」を考える情報の集約，情報の発信，個人に対する指導・助言の役割も期待される。
- \* 高校進路指導（とくに就職指導）は「生徒指導」と密接不可分である  
「遅刻はなぜいけないのか？」をはじめ，整容指導など「社会との関わり」（仕事は最も明確な社会との関わりである）から指導しないと簡単に「個人の自由」にされる
- \* 今の生活の意味を自覚させ，社会の中で生きる方向付けをすることが「キャリア教育」  
学校生活におけるすべての行動は職業適性のDPT3領域のどれかまたは複数の要素を中心にしたものとして理解・分類できる。今の生活・今の行動は必ず将来につながるということを知覚させ，他者と共に「将来の生活の見通しを持って」「今を大切に生きる」態度を形成する方向付けが「生徒指導」であり「キャリア教育」である。